「情報処理学会論文誌　プログラミング」の編集について

プログラミング研究会論文誌編集委員会

1. 対象分野

プログラミングはコンピュータの誕生と同時に生まれた伝統的な分野であるが，コンピュータがある限り不可欠な技術である．並列分散処理やマルチメディア応用など処理内容が高度になるにつれて，プログラミングの重要性は増すことがあっても減ることはないであろう．

「情報処理学会論文誌　プログラミング」は，プログラミングに関するテーマ全般を専門に扱う論文誌である．具体例として次のようなテーマがあげられる．

- プログラミング言語の設計，処理系の実装
- プログラミングの理論，基本概念
- プログラミング環境，支援システム
- プログラミング方法論，パラダイム

これらを応用したシステムの開発事例も対象に含まれる．また，上記以外でも，プログラミングに関する面白い話題であれば対象となる．

2. 編集方針

本論文誌は，プログラミング研究会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴がある．論文誌への投稿者が用意する研究会発表用の資料が，内容的にそのまま本論文誌への投稿論文となる．

研究会発表をせずに本論文誌に投稿することはできないが，逆に，本論文誌への投稿をともなわない研究会発表は可能である．そのような発表や，論文が不採録となった発表については，アブストラクトが本論文誌に掲載される．

本論文誌に掲載する論文は，通常のオリジナル論文と，サーベイ論文の 2 種類とする．どちらの種類であるかは，著者自身の指定によって決まる．論文の記述言語は日本語，英語のいずれかとする．論文の長さに制限は設けない．

3. 査読基準

基本的に，減点法に陥ることを避け，論文の良い点を積極的に評価するという方針を貫く．具体的には，新規性，有効性などの評価項目のうち，どれか 1 つの点で特に優れていると認められれば採録する．体裁のみが整った論文より，若干の不備はあっても技術的な貢献の大きい論文を積極的に受け入れる．

このような観点から，たとえば次にあげるような，従来は論文としてまとめることが難しかった内容について論じた論文もできるだけ受け入れる．

- プログラミング言語の設計論
- システムの開発経験に関する報告
- 斬新なアイディアの提案
- 概念の整理，分類法，尺度の提案
- 複数のシステムその他の比較

4. 投稿から掲載までの流れ

本論文誌への投稿希望者, および研究会での発表希望者は，発表会開催日の約 2 カ月前までに発表申し込みをする．具体的な方法は研究会ホームページ（http://sigpro.ipsj.or.jp/）を参照していただきたい．申し込みの際には，所定の申し込みフォームに本論文誌への投稿の有無，オリジナル論文とサーベイ論文の種別指定を明記する．また，アブストラクト（和英両方，和文は 600 字程度）を提出する．

論文投稿を希望した場合は，研究発表会の約 1 カ月前までに，別に定めるスタイル基準に従ったカメラレディ形式で論文を提出する．

毎回の研究発表会の直後，編集委員会が開催され，各論文について 1 名の査読者が決定される．査読報告をもとに，編集委員会は採録，条件付き採録，不採録のいずれかの判定を行い，発表会開催後 3 週間程度で発表者に採否通知を行う．照会の手続きはないが，条件付き採録の場合は採録のための条件が示される．また，論文改善のための付帯意見が添付される場合がある．この場合は，3 週間以内に改良版を作成する．最終的に採録となった論文が，学会の諸手続きや校正を経て掲載される．

英文論文については，2015 年 1 月から Journal of Information Processing（JIP）との連携が始まっており，JIP に正本が掲載され本論文誌にそのプレプリントが掲載される．

本論文誌は，電子図書館（情報学広場：情報処理学会電子図書館）上にオンライン出版され，研究会登録者は発行直後から無料で閲覧できる．また，発行後 2 年経過した論文誌は，無料で閲覧できる．英文論文が掲載される JIP は，オープンアクセスである．

© 2016 Information Processing Society of Japan

5.　2015 年度の活動のまとめ

2015 年度は第 104～108 回の研究発表会を開催し，合計 49 件の発表および活発な議論が行われた．

6 月　4～ 5 日	富山県教育文化会館
8 月　5～ 6 日	ビーコンプラザ 別府国際コンベンションセンター [SWoPP—並列/分散/協調プログラミング言語と処理系]
11 月　5～ 6 日	国立情報学研究所（学術総合センター）
1 月 13～14 日	A.R.K ビル（福岡市）
2 月 28～29 日	東京大学 駒場キャンパス

このうち，第 105 回（SWoPP2015）が他研究会との連続開催であり，残りの 4 回が単独開催である．SWoPP の回には特集テーマを定めたが，特集テーマと直接は関係しない発表もつねに受け付けるようにした．

研究会論文誌に投稿された論文は，まず研究会で発表され，発表会の直後に開催される研究会論文誌編集委員会において議論し，査読者を定めて本査読を行った．第 104～106，108 回では，例年どおり，投稿の有無にかかわらず，1 件あたり発表 25 分，質疑・討論 20 分の時間を確保し，参加者が研究の内容を十分に理解するとともに，発表者にとっても有益な示唆が得られるように努めた．第 107 回では，例年どおりの発表形態に加え，論文投稿をともなわない短い発表（発表 20 分，質疑・討論 10 分）も募集し，萌芽的な研究等の発表を促進した．

本年度のプログラミング研究会の発表件数は 49 件であった．2011 年度は 57 件，2012 年度は 44 件，2013 年度は 43 件，2014 年度は 42 件であり，ここ数年の減少傾向から脱却し大きく改善した．また，論文誌への投稿件数は本年度 29 件であった．2011 年 39 件，2012 年度 22 件，2013 年度 33 件，2014 年度 18 件であったので，昨年度からは改善した．採択件数は 16 件であった．これまでは 2011 年度 20 件，2012 年度 13 件，2013 年度 19 件，2014 年度 8 件であった．昨年度は採択率が約 5 割と低めであったが，今年度は約 6 割となり一昨年度までとほぼ同じ採択率となった．発表件数・投稿件数が増加し研究会活動の活性化の兆しが見えるが，今後も発表件数・投稿件数を増やすべく努力をしていく所存である．

ここに，大変短い査読期間にもかからわず論文査読の労をとっていただいた方々の氏名を掲げる．

2015 年度査読者

安部 達也	今井 敬吾	馬谷 誠二
大野 和彦	河内谷 清久仁	木村 大輔
木山 真人	久野 靖	小出 洋
櫻井 孝平	佐藤 重幸	佐藤 芳樹
澄川 靖信	滝沢 寛之	滝本 宗宏
対馬 かなえ	中村 正樹	南里 豪志
早瀬 康裕	平石 拓	細部 博史
前田 敦司	松崎 公紀	水島 宏太
南出 靖彦	森畑 明昌	吉田 則裕

本号の編集にあたって

2015 年度第 5 回研究発表会
担当編集委員　松田 一孝，上野 雄大

本号は，2015 年度第 5 回プログラミング研究会（通算第 108 回）からの採録論文 5 件からなる．

第 5 回プログラミング研究会は，2016 年 2 月 28～29 日に東京都目黒区の東京大学駒場キャンパスで開催された．この回はテーマを特に設けず，幅広く論文を募集した．

研究会論文誌への投稿をともなう発表のほかに，論文投稿をともなわない発表を歓迎したことも，これまでと同様である．その結果，11 件の発表（発表 25 分，質疑 20 分）が行われた．

投稿原稿の査読を議論する編集委員会会合は，開催日の昼休みや研究会終了後に編集委員ならびに編集委員会が出席を依頼したメンバで現地にて複数回開催した．ただし，投稿論文の著者と利害関係のあるメンバは，その論文についての議論の間は退席している．委員会会合では先の節に記した対象分野，編集方針および査読基準に従って，各投稿論文の評価できる点について意見が交され，その場で可能な限り査読者の選定を行うようにした．各査読者は，編集委員会での議論をふまえ査読を行った．

最終的に，研究会で投稿を希望したうち 5 件の論文（通常論文）が採録となった．他の発表については 1 ページの概要を掲載してある．掲載順序は論文，概要のそれぞれについて当日の発表順に従うこととした．

さらに，本号でも，英語による研究公開を促進することを目的として，日本語採録論文の英語化という試みが実施された．これは採録論文著者の希望に基づいて，著者が採録された論文を英語化するものである．なお，採録時の内容を変えないように英語化することと，英文校正を通すこととが条件となる．また，採録時の論文の内容と英語化後の論文の内容とに差異がないことは，英語化担当編集委員によって確認され，編集委員会によって承認される．本号では 2 件の英語論文と 3 件の日本語論文が採録され，1 件の英語化の希望があった．

© 2016 Information Processing Society of Japan

最後に，研究会開催および論文誌編集にさまざまなご協力を賜った皆様に深い感謝を捧げたい．

© 2016 Information Processing Society of Japan